

交流自治体の豆を揃えて

## 節分フェアを開催

1日、杉並区役所1階の売店では、区の交流自治体で栽培された大豆や花豆を使った商品を取り揃えた「節分フェア」が始まりました。「このフェアで、初めて紹介する商品もあり、ぜひこの機会に味わってもらいたい」と担当者は話します。フェアは10日まで開催されます。

昭和の時代は、節分の夜といえば、「鬼は外、福は内」の掛け声が、あちこちで聞かれたものですが、最近はこうした季節ごとの年中行事も、目にする機会が少なくなってきました。節分は、その名のとおり季節を分けるという意味です。日本には春夏秋冬があり、その中でも春が最も重要と考えられていました。春が始まる日は立春で、その前日が節分です。今年の立春は2月4日ですので、その前日の3日が節分になります。

杉並区には、国内に10の交流自治体があります。北海道名寄市はトマトジュースやもち米、福島県北塩原村は温泉水を煮詰めた山塩やハチミツ、新潟県小千谷市はコシヒカリや割れ煎餅など、それぞれの自治体には、「これぞ」という自慢の逸品があります。こうした商品は、区役所1階ロビーの売店「コミュかるショップ」で年間を通じて、販売を行っています。リピーターも順調に増えていますが、売り場面積が限られているので、普段は紹介できていない商品を年中行事に併せて販売することにしました。

今回は、節分ですので、豆を使った商品です。北塩原村の地元の朝市でも大人気の豆菓子や群馬県東吾妻町の花豆の甘煮。さらに小千谷市からは、地元の大豆を煎ってアラレと合わせた商品も登場。そのまま食べても美味しいですが、湯をかけてお茶代わりに飲むとさらに美味しいそうです。



コミュかるショップの職員は、「交流自治体の安全で美味しい豆を取り揃えましたので、ぜひ家族で節分の気分を味わってほしいですね。」と笑顔で話していました。節分フェアは、2月10日まで開催します。(土曜・日曜は休み)

### 【問い合わせ先】

区民生活部文化・交流課 TEL 3312-2111 内線 3785